

道 徳 科 学 習 指 導 案

令和5年6月1日(木) 学習指導Ⅱ 第6学年3組(6年3組教室) 指導者 内田 圭祐

【主 題】 自分が大変なときって…(内容項目B7「親切, 思いやり」) 『命のおにぎり』(光文書院)

考察	道徳的価値についての理解 (学習活動)	自己の生き方についての考え (学習活動)	道徳性(育成を目指す資質・能力) (道徳的判断力, 道徳的心情, 道徳的实践意欲と態度)
育成を 目指す 資質 能力	自分が大変なときでも他人に親切にすることのすばらしさや自他が温かい気持ちになるという道徳的価値理解, 自分中心に考えてしまい, 進んで他人に親切にすることができないという人間理解, 親切にできたり, できなかったりする場合の感じ方や考え方は多様であるという他者理解をすること	自己の生活経験を基に, 自分が大変なときでも他人に親切にすることのすばらしさやよさ, 難しさについて, 友達や教師と話し合いながら, 自分事として考えること	自分が大変なときでも他人に親切にしようとする道徳的实践意欲と態度を身に付けること
子どもの 実態	関わりが希薄な人にも親切にすることで, 自他が温かい気持ちになるというよさ, 親切にすることは大切であると理解していてもできないことがあるという人間の弱さ, 親切にできたり, できなかったりした場合の感じ方や考え方が多様であることを学習している。	自己の生活経験を基に, 関わりが希薄な人にも親切にすることのよさや難しさについて, 友達や教師と話し合いながら, 自分事として考える学習をしている。	休み時間や昼休みに校庭でけがをして困っている児童を保健室に連れていくなど, 関わりが希薄な人に親切にしようとしている。
価値	自分が大変なときでも他人に親切にすることは, すばらしいことである。なぜなら, 自分が大変なときには周りのことを見る余裕がなくなり, 自分中心に考えてしまうからである。自分が大変なときとしては, 体が疲れている, 風邪気味であるなど肉体的に大変なときや, 友達と喧嘩をしてしまった, 習い事の大会や試験があるなど精神的に大変なときなど, 多様な状況が考えられる。このような自分が大変なときであっても, 相手のことを考え親切にすると, 相手が温かい気持ちになり, 大変な自分自身も相手の喜びを感じ, 親切にできたことに満足感をもつことで, 温かい気持ちになる。6年生の子どもたちは, 自分自身を客観的に捉えられるようになるため, 他人と自分を比べ, 自分のできないところに目が向きがちになり, 自己肯定感が下がる傾向にある子どもたちが多い。そのような6年生の子どもたちが, 自分が大変なときでも他人に親切にすることのすばらしさやよさ, 難しさについて考えることで, 自分が大変なときでも誰かの役に立ちたいと思うこと, 親切にされた際に今までより感謝の気持ちをもとうとすること, 相手の状況を考えずに周囲に対して親切な行為を求めようとしないことなどの道徳的实践意欲と態度を身に付けられる。		

	・本教材は、東日本大震災により仮設住宅へ避難し、十分な生活ができていない福島県飯館村の人や、大雪で立ち往生をしている糖尿病の運転手が中心となって登場する話である。自分たちが大変な状況にある福島県飯館村の人が、立ち往生をしている運転手たちのためにおにぎりを作り、雪が降っている中、おにぎりを渡し回る姿から、自分が大変なときでも他人に親切にすることについて、問題意識をもつことができる。また、自分たちが大変な状況にある福島県飯館村の人や親切にされた運転手の心情に着目し、自分が親切にされたりしたりしたときの生活経験と照らし合わせながら課題を追究していく中で、自分が大変なときでも他人に親切にすることで、相手も自分も温かい気持ちになるというよさに気付くことができる。さらに、福島県飯館村の人の状況を想像し、自分が大変な状況での生活経験と照らし合わせることで、大変な状況においても親切にすることのすばらしさや難しさについて考えることができる。そして、自分が大変なときでも他人に親切にすることについて、自己の生き方と照らして考えられる。
見方・考え方	自分が大変なときでも他人に親切にすることについて、自己との関わりで多面的・多角的に捉え、これからの自己の生き方について考えること。
今後の学習	6年「相手を思う、とうとい心」で、自分の命をかけてでも助けようとする心に気付き、他人を思う心の尊さを考える学習へと発展していく。
他の教育活動との関連	・自分が大変な時でも他人に親切にすることについて 例：次の授業や帰りの準備で忙しいときに、友達を手伝うことについて 給食の準備中に、こぼしてしまった友達を手伝うことについて 自分が友達との人間関係に悩んでいるときに、他の困っている友達のことを心配することについて

本時の学習（１／１時間目）

ね ら い 自分が大変なときでも他人に親切にする理由について話し合う活動を通して、相手も自分も温かい気持ちになることやその行為のすばらしさに気づき、自分が大変なときでも他人に親切にしようとする道徳的实践意欲と態度を養う。

評価の視点 自分が大変なときでも他人に親切にする理由について、教材における登場人物の心情や状況、自己の生活経験を基に、多面的・多角的に考えたことを発言したり、記述したりしている。 <発言・タブレット>

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
1 教材を読み、学習課題をつかむ。 ・普段なら親切な行動ができるけど、自分が忙しいときには、友達に親切な行動はできない気がするな。 ・登場人物の飯館村の人は、私と違って、大変な状況でも、他人に親切にしているな。さっきの質問で、クラスの友達にも自分が大変なときでも他人に親切にしているって人がいたけど、それはどうしてだろう。（課題意識）	○自分が大変なときでも他人に親切にすることに対する感じ方の違いに気付けるよう、「親切な行動の可不可」「大変な状況」「自分が大変な状況での親切な行動の可不可」を記述した事前のアンケート結果を提示し、それに対する考えを問いかける。 ○教材の登場人物が、自分が大変なときでも他人に親切にしていることを把握し、自分が大変なときでも他人に親切にすることについて問題意識をもてるよう、教材を範読し、自分が大変なときでも他人に親切にしている人の有無を問いかける。
学習課題：どうして、自分が大変なときでも他人に親切にするのだろう	
2 学習課題の解決に向けて話し合う。 ・他人に親切にするのは、相手が本当に困っていそうだからだと思うよ。自分が大変なときであっても、命に関わることであれば、助けてあげたいな。 ・アンケートの答えが違いうけれど、考え方は少し似ているな。命に関わるから親切にしていると思ったけれど、相手が困っていそうだからというのは分かる気がするな。相手の立場や気持ちを考えるってことだね。 ・運転手は本当にうれしかったと思うな。助けた相手が大変な生活をしていると分かって、余計なおにぎりをもらったことに感謝していたと思うな。 ・自分が飯館村の人の立場だったら助けられないかも知れないな。だって自分の生活も大変だし。飯館村の人ってすごいことをしているな。 ・親切にしたいのだけれど、自分が大変なときには、なかなか親切にすることってできないよな。例えば、次の授業の準備で忙しいと、周りの人のことまでなかなか考えられないと思うな。 ・実際、自分が大変なときに他人に親切にできないかもしれないけれど、それでいいわけではないね。少し頑張ることで、他人を笑顔にしたり、自分が笑顔になったりすることもあるだろうから、できる範囲で頑張りたいな。 3 本時の学習の振り返りをする。 ・自分が大変なときにも他人に親切にするのは、相手も自分も笑顔になれるからだと分かった。いつでも親切にできるわけではないけれど、相手のことを考えて行動したいな。（課題を解決した意識）	○自分が大変なときでも他人に親切にすることの理由を明確にできるよう、学習課題に対する考えをタブレットに記述するよう促す。 ○自己の生き方をより納得するものにしようとする意識を高められるよう、アンケートを基にした考え方の異なる3～4人のグループを編成し、互いの考えを話し合うよう促す。 ○相手が大変なときでも自分が親切にされたときの気持ちに気付けるよう、インタビューをされたときの運転手の気持ちを問いかける。 ○自分が大変なときでも他人に親切にすることのすばらしさに気付けるよう、飯館村の人の立場だった際の行為の可不可と飯館村の人に対する思いを問いかける。 ○自分が大変なときでも他人に親切にすることの難しさに気付けるよう、アンケート項目を指差しながら、「普段の生活における、自分が大変な状況での親切な行動の可不可とその理由」を問いかける。 ○自分が大変なときでも他人に親切にすることのよさに気付けるよう、自分が大変なときに他人に親切にしないことの是非を問いかける。 ○本時に学習したことを自己との関わりで考えられるよう、本時の導入時で提示したアンケート結果を指差しながら、「学習課題に対する考え」と「今日、学んだこと」という視点で自分の考えをタブレットに記述するよう促す。